

研究成果 3,000 字程度 (別紙添付可)	本研究は、大学院現代沖縄研究科沖縄・東アジア地域研究専攻の事例研究コロキウムを利用し、県内外でおこなわれている、人文学領域の先端的な沖縄研究・アジア研究に関する報告をおこない、その討議を通じて、沖縄学および沖縄研究、また、アジア研究の地域学の研究主体の養成と学際的発展のための方法論について検討することを目的としている。 また、その報告を地域研究所紀要「地域研究」等に反映させ、他の共同研究班の所員・特別研究員とも共有することで、これまで「中長期経営計画」でも課題とされてきた、地域研究所と本学研究科の連携の発展に資することを目指している。 尚、新たに出発した「第5次中長期経営計画」でも、この課題は引き継がれている。 本研究では、近年アジアにおいて注目度の高い、人文学の現代性に着目し、同時に、現在、本学現代沖縄研究科における修士論文をめざした研究テーマに則して、研究主体養成と大学院教育の付加価値を意識して、先端的な研究報告を受けて討議することを目的としている。また、沖縄において関心の高いテーマを選択し、市民に開かれた研究についても意識化した。 具体的には、以下を方法とした。 ① 研究主体が自主的にコロキウム等を運営し、その方法を身につける。 ② 先端研究や萌芽的研究の報告等に際し、関連する研究成果を理解する。 ③ 先端研究や萌芽的研究の報告をまとめる。 (1) 報告者の論文 (2) コロキウムの研究報告 (3) 研究項目 ・沖縄と人の移動 ・移民の歴史と文学 ・沖縄戦と戦争捕虜 ・沖縄現代史における失郷と移動 ・沖縄における食や農の実践と思想 ・沖縄におけるジャーナリズム思想史 ・その他 研究主体の養成という課題において、地域研究のインフラ構築と一定の水準の研究力量を育てることは、研究室単位や教員単位の指導だけでは困難である。こうした事情は、多くの教育研究機関で共通する課題がある。 こうした課題の克服のため、多くの大学院では、コロキウム形式（共同ゼミナール形式）を通じての教育をカリキュラムに取り入れている。そして、本学現代沖縄研究科沖縄・東アジア地域研究専攻においても、2018 年度より、新たにコロキウム形式の教育を試みるようになった。 本研究では、本学現代沖縄研究科沖縄・東アジア地域研究専攻で作られたコロキウム形式での事例研究において、先端的研究や萌芽的研究の検討を通じて、研究主体の養成において一定水準の研究力量を得るための教育方法、効果的に個別研究に対して世界的研究成果の普及の影響を得るための方法、また、沖縄大学における地域研究の知的基盤の付加価値を高める方法がとできるかについて、実践的な事例を蓄積しようとした。 具体的には、先に示された課題に関する報告を月1回のペースでおこない、また、報告に関連する文献の共同討議を通じて知的蓄積をおこなった。 これまで、本学大学院現代沖縄研究科と地域研究所との連携については、「中長期経営計画」などのなかで、繰り返し目標として示されてきた。現状としては、研究科を修了した
--	---

後、特別研究員となって、共同研究に参加したり、また、論文等を発表したりするなどはおこなわれてきたが、個人的なものに留まり、具体的な教育における連携システムの構築が遅れてきた。

こうした課題に対して、研究科では、個別の教員による指導や授業はあったが、組織としての対応は必ずしも十分とは言えない現状があった。このような現状を克服し、本学における研究主体の養成（大学院）と知的蓄積および知的生産と共有（研究所）の連携のかたちを作る試みが求められてきた。

本研究は、主に人文学、あるいは、社会の人文的基盤にアプローチする研究の事例研究の演習を一つの実験的な場として、こうした長年の課題に対する新しい取り組みとして提案した。研究科と研究所の有機的な研究蓄積と知的生産の協力関係を築くための、新たなアプローチの提起に必要な実践事例を蓄積しようとした。

2018年度における実践としては、以下の通りである。

また、公開講演会については、それぞれ、専門領域にかかわる大学院生が講師との交渉や司会を務めた。同時に、それぞれの公開講演会について、講師の著書など、大学院生が参考文献を選定し、事前の学習をおこなった。沖縄県立美術館訪問の場合には、沖縄美術史に関連する論文を事前に読み、見学した。

公開研究会：2018年5月11日（金）午後6時半～

会場 沖縄大学本館H104教室

テーマ 沖縄一移民と文学ー

講師 仲程昌徳（元琉球大学教授）

参考文献

- 1) 大城立裕「エントウリアム」（短篇、新潮社刊『レールの向こう』に収録）
- 2) 仲程昌徳「初期移民終焉の物語 大城立裕「エントウリアム」をめぐって」（『越境広場』第2号収録）

今回は、近現代沖縄文学、とりわけ、移民と文学を中心に調査研究を進めている仲程昌徳氏（元琉球大学教授）をお招きした。仲程氏は、近年、ハワイや中南米、ミクロネシア、東南アジアなどの沖縄出身者が残した文芸作品（短歌・琉歌、小説、詩他）を収集しているが、今回はとくに、ハワイの沖縄出身の移民と2世を描いた作品を考察しながら、文学にあらわされている沖縄の近現代史とハワイの近現代史の交差を考察した。準備にあたっては、沖縄の移民史を専門とする院生が交渉、司会、参考文献の選定をおこなった。また、当日、共同研究者の秋山かおり氏と謝花直美氏が参加、また、東京の近現代史関連出版社の編集者も参加し、活発な討論がおこなわれた。

2018年5月26日（土）午前10時～

会場 沖縄県立美術館

内容 特別展コレクション・ギャラリー「沖縄美術の流れ」観覧

公開研究会：2018年6月1日（金）午後6時半～

会場 沖縄大学本館H104教室

テーマ 沖縄における持続可能な農業と南米の農業について

講師 組原洋（沖縄大学名誉教授）

参考文献 組原洋「沖縄県の農業の方向性一序論一」

本学名誉教授の組原洋氏を招いて開催した。組原氏は、長らく、第三世界の共同体や都市・農村関係等のフィールドワークをしておられるが、今回はとくに、そこから見える農業の方向性について、フィリピン、パラグアイを始め、さまざまな地域を比較しながら、沖縄の農業の可能性について参照となる地域の農業の課題について報告した。今回は、沖縄の農の思想に関心をもつ大学院生が企画、講師との交渉、参考文献の選定などをおこなった。当日は、沖縄県の製造業の企業連合のスタッフ、有機農業に関心をもつ教員の参加を得て、大学院生とともに活発に討議をおこなった。

公開研究会：2018年6月22日（金）午後6時半～

会場 沖縄大学本館H104教室

テーマ 沖縄戦に関するテレビ・ドキュメンタリー

作品 ① 「沖縄の勲章」NHK 1969年初回放映 60分

② 「あの日、僕らは戦場で — 少年兵の告白」

初回放映 2015年8月 60分

今回のコロキウムでは、沖縄戦に関する二つのテレビ・ドキュメンタリーを上映した。これは、後期におこなわれた七沢潔氏の報告と連動したものであった。

公開研究会：2018年7月6日（金）午後6時半～

会場 沖縄大学本館H104教室

テーマ ニューカレドニアの沖縄移民

講師 三木健（ジャーナリスト、元琉球新報社編集局長）

参考文献 三木健『空白の移民史—ニューカレドニアと沖縄—』

ジャーナリストの三木健氏は、元琉球新報社編集局長・取締役副社長で、『西表炭坑概史』『八重山近代民衆史』『空白の移民史—ニューカレドニアと沖縄』等、沖縄近現代史や移民史に関する多くのお仕事をされている。また、今日の「世界のウチナーンチュ大会」開催のきっかけとなった、『琉球新報』での連載、「世界のウチナーンチュをたずねて」を企画し、また、実際に取材をおこなった方でもある。この公開講演会については、沖縄移民史を研究する大学院生が企画、講師との交渉、また、参考文献の選定をおこなった。当日は、太平洋諸島の植民地都市の研究や国際交流を専門とする教員の参加を得て、大学院生とともに活発な討議がおこなわれた。

公開研究会：2018年7月27日（金）午後6時30分

会場 本館H104教室

講師 安次富順子氏（琉球料理研究家／沖縄調理師専門学校）

テーマ 琉球料理の復元と研究（仮）

安次富順子氏は、琉球料理、沖縄の食文化、ブクブクー茶などの研究、指導を専門としている。1966年女子栄養大学家政学部食物栄養学科卒業し、新島料理学院に勤務後、沖縄調理師専門学校の副学長となられた。沖縄伝統ブクブクー茶保存会会長を勤めておられる。主な著書に「沖縄の家庭料理」共著（月刊沖縄社）、「ブクブクー茶」（ニライ社）、「沖縄県風土記」（旺文社）、「琉球王朝の料理と食文化」（琉球新報社）、「琉球菓子」（沖縄タイムス社）などがある。当日は、安次富順子氏による講義の後、大学院生や中琉の食文化比較に関心をもつ教員、また、管理栄養学科新設にかかわる教員も参加し、討論がおこなわれた。

公開研究会：2018年10月12日（金）午後6時30分～

会場 本館H104教室

講師 宇根悦子氏（本学大学院研究科1年次）

テーマ 阿波根昌鴻資料調査について

今回は、2001年から続けられている、戦後沖縄の貴重な民衆史資料である「阿波根昌鴻資料」の調査整理に関して、院生の宇根悦子氏の話をつかかった。阿波根昌鴻氏は、戦後沖縄における米軍土地接収に抵抗した農民運動の指導的立場にあったが、その資料は伊江島史、農民運動、さらには沖縄現代史の貴重な記録となっている。宇根氏は、2001年から始まった阿波根昌鴻資料の収集整理、調査に継続的に関わっている。尚、この報告は、11月におこなわれた、院生の伊江島フィールドワークと連動した事前学習を兼ねたものであった。

公開研究会：2018年11月30日（金）午後6時半～

会場 沖縄大学ミニシアター

テーマ テレビと沖縄の基地報道

講師 七沢潔（NHK放送文化研究所研究員／早稲田大学ジャーナリズム研究所）

内容

放送文化研究所研究員・早稲田大学ジャーナリズム研究所研究員の七沢潔氏をお招きして開催した。七沢氏は、NHK入局後、沖縄や原発、イスラム世界をテーマにドキュメンタリー作品を制作してこられ、沖縄関連では、E TVスペシャル「獺さんを知っていますかー詩人・山之口獺の軌跡ー」、また、E TV特集「ネットワークでつくる放射能汚染地図ー福島原発事故から2ヶ月」では、日本ジャーナリスト会議大賞、石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞、文化庁芸術祭大賞を受賞した。当日は、大学院生だけでなく、沖縄の県立高校教諭やジャーナリストの参加を得て、沖縄に題材を求めたドキュメンタリー映像を上映、批評し、討論をおこなった。